

みどりの杜俳句会

我が家も彼方の山も春霞  
山崎 才子

山桜朝日に匂ひ迎へらる  
あん黄粉添へて手作り蓬餅  
野口利江子

前山に桜咲き初む日和かな  
山坂に一つづつ落ち鳥椿  
松本 孚子

曾祖父の植ゑし実家の桜かな  
朝もやの這ふ山畑や芋植うる  
小宮 勉

家の囲りひだまりに咲く露のたう  
山桜仰ぎ付き添ふ試歩の庭  
大竹 祐也

庭出でて春風の来る山のだ  
山晴れて若草の庭歩みけり  
関口 真吾

山裾の三つ葉を摘みて清し汁  
山おぼる鹿の家族の移動かな  
岩崎 真人

頂に神あり武甲山芽吹く  
河西カナメ  
桜散る歩行リハなる並木かな  
金子 圭輔

春異常コロナニュースに身の縮む  
馬場 芳  
山菜の天ぶらそばや山の茶屋  
千野さき子

雪柳藪の中より先の出で  
飯野 トヨ  
春疾風前山の竹大暴れ  
関口 侑子

うぐひすの上手に鳴けず前の山  
田村 好子  
青竹の支柱や枝垂紅桜  
土屋 厚子

雛祭り炭酸まんじゅう手作りす  
高橋 ツ子  
山ごとに斑模様の芽吹きかな  
初雁 功子

目覚め来てベランダ霰跳ねとべり  
鈴木 啓子  
初蝶の天空へ飛ぶ速さあり  
山田 美子

白石短歌会

ホーホケキョ音感の良い友達が  
来た様を気分一声真似る  
渡邊美枝子

七十億のヒトの驕か新型の  
コロナウイルスの猛威は止まず  
坂本 美江

二人目の曾孫の誕生は姫の報  
初音のうぐいす裏山より聞こゆ  
白石 礼子

散る桜惜しみつ見上ぐ天国の  
笑い王の笑顔に又涙す  
渡邊阿里子

散る桜惜しみつ見上ぐ天国の  
笑い王の笑顔に又涙す  
渡邊阿里子



人権シリーズ

367

『誰もが人間らしく生きるために』

私には、障がい者の息子がいます。関わっていただいている多くの方に支えられ暮らしています。しかし、世の中にはまだまだ偏見の目も多く、電車の中で心無い人に噛んでいたガムを付けられたりすることもあります。またその逆に、迷惑をかけていることもあるでしょう。これはひとつの例ですが、他にも何かしらの問題は起きていると思います。

では、なぜそういう状況になってしまうのか。それは、健康者と障がい者同士の関わり合いの場が限られていて、知り合うチャンスが無いからです。そのため、どう接したら良いのか分からず、不安があるからだと感じます。親である私もそうであったように。ですから、どんな小さなことでも声かけ合える社会であって欲しいと願います。

生きる上で、障がい者福祉制度に助けられている部分もあり、大変ありがたいことだと思いますが、制度だけでは人間らしく生きていくことは出来ません。障がい者に限らず、人が人間らしく生きることが、お互いを思いやり支え合い生活していくことだと思います。本来の社会とは、お互いを認め合い、受け入れ合い、支え合える優しさがとても重要です。

手をつなぐ育成会長 渡辺 治見